

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100302
法人名	佐藤循環器科内科
事業所名	グループホーム朝生田の里
所在地	愛媛県松山市朝生田町4丁目10-25
自己評価作成日	平成24年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMAGS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は、利用者のほとんどが透析患者の為、食事・水分・運動制限のある生活をしていません。そのような生活の中から日々の楽しみを見つけられるよう、また少しでも多くの利用者の笑顔が見れるように月別や毎日曜日のレクリエーションには力を入れて取り組んでいます。そしてコミュニケーションを多く持ち、職員が寄り添い家族と共に支えながら地域の中で安心して最期まで過ごして頂けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- ほとんどの利用者が、透析治療を必要とする方であり、母体病院をかかりつけ医とされ、週3回、透析治療をされている。事業所への入居が決まると、1度母体病院に入院していただき、スクリーニング検査を受けて、隠れた疾病がないか等の検査をされている。母体病院からは、2週間に1度、往診がある。透析治療や受診・往診・リハビリは、屋根つきの通路を通して、事業所と病院を行き来されている。他の医療機関の受診は、基本的にご家族が付き添われるが、ご家族からの依頼があれば、1時間当たり1,000円で職員が同行するシステムになっている。
- 透析治療のない日は、できるだけ散歩や日光浴ができるように支援されている。四季折々の花を見に行かれたり、ドライブをして、食事をすることもある。利用者の誕生日は、「ご本人の希望が叶えられる日」として、行きたい場所のある方は、職員と1対1で外出されている。海を見に行かれたり、好きな店の蕎麦を食べに行かれた方もある。調査訪問時、帽子をかぶり、職員と散歩に出かける利用者の様子がうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

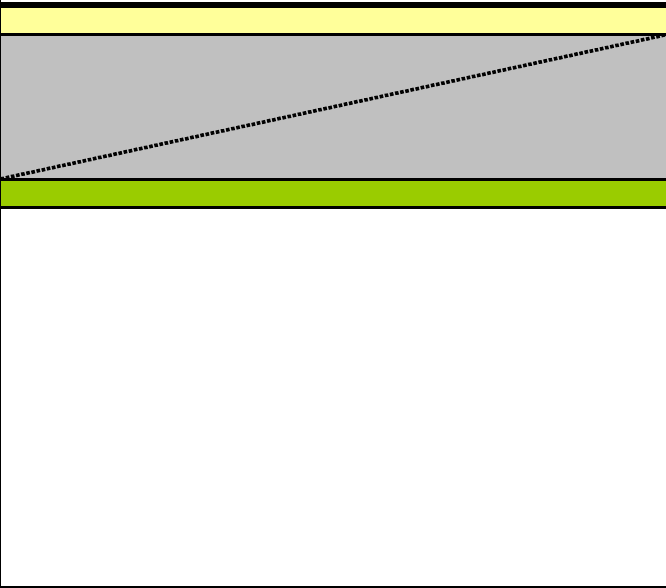
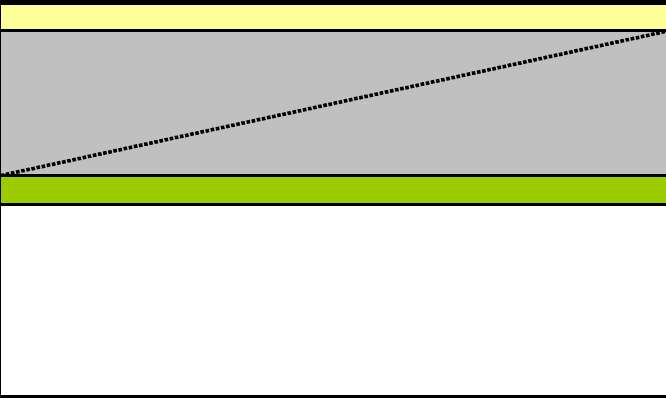
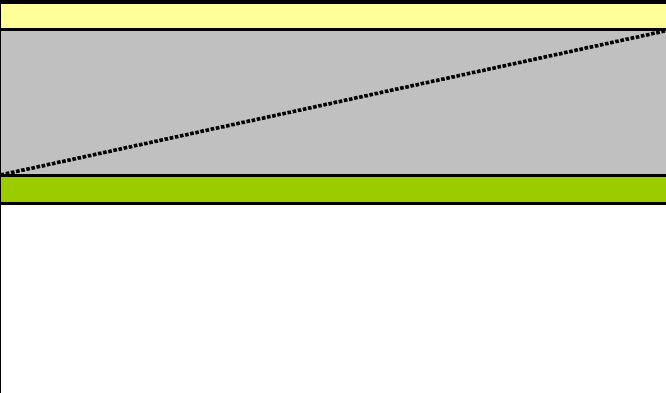
ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム朝生田の里
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	中西 雅俊
評価完了日	24 年 6月 19日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域との密着を理念へ取りいれている。廊下やリビングへ掲示している。	
			(外部評価) 事業所は、「尊厳の保持・自立支援・地域との密着」という3つの理念を掲げて、特に、「地域との密着」に力を入れ取り組まれている。利用者は、職員とともに地域行事等に参加されたり、法人全体で行なう「夏祭り」は、地域の方達も利用者とともに楽しめるよう取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事への参加、外出時の近隣住人への挨拶を行っている。	
			(外部評価) 地域の運動会や夏祭り、又、敬老会時には案内をいただき、利用者は職員と一緒に参加されている。毎年恒例となっている法人の「夏祭り」時には、婦人会の方と一緒に、利用者や職員も盆踊りを踊られた。又、系列施設「えひめ文化健康センター」の、三線やゴスペル、フラダンス教室等の受講生による披露もあり、地域の方も含め300名ほどの参加があった。夏祭り当日は、にぎやかになるため、法人では、夏祭り前には、近所のお宅をあいさつに回られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の際に事業所の行事や御利用者との日々の関わりの中から伝えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 行事報告や日常報告から事業所の取り組みを報告し質疑応答を行っている。</p> <p>(外部評価) 会議には、民生委員や近隣の方達にも参加していただき、民生委員から、行事の案内をいただくこともある。ご家族には、出席していただけそうな方をピックアップして案内されているが、参加は少なめのようなのである。前回の評価実施後の会議では、外部評価の結果や目標達成計画について説明された。又、ご家族にも会議内容を知っていただくために、議事録を送付されたり、事業所内にも掲示されている。年間のレクリエーションの様子を映像で観ていただいた際には、参加者より「楽しそうですね」と感想をいただいた。法人部長は、「後退しないように、現状の会議を続けていきたい」と話しておられた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議での交流、議事録の提出や生保を利用している利用者の保健管理等の諸連絡を行っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時に、市の担当者には法改正について説明していただいたり、地域包括支援センターの方には、成年後見制度について話をいただいた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 施設内研修を行い学ぶ機会を設けている。日中は玄関に施錠していない。</p> <p>(外部評価) 身体拘束や虐待についての内部研修は、年2回内容を深めながら繰り返し行われている。職員は、「リクライニングの車椅子の背もたれを倒しすぎて、ご本人の力で起き上がれないような状態にすることも身体拘束である」ということを学ばれたようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内研修を行い学ぶ機会を設けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議を活用し市や地域包括支援センターより成年後見制度の概要を確認できる機会を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者や家族の日程を確認しながら十分に理解して頂けるよう説明のできる機会を設けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関へ意見箱を設置している。家族来訪時には利用者と家族を交え近況の報告を行っている。その関わりの中から意見、要望を確認し改善に取り組んでいる。 (外部評価) 年4回、行事等、利用者の表情がわかる写真を載せた「朝生田の里新聞」を発行されている。ご家族の来訪時には、ご本人用の物品やおこずかいで購入したもののレシートをお見せして報告されている。又、ご家族から「職員の〇〇さんの顔が見えませんが・・・」等と尋ねられた時には、退職したこと等を伝えたり、管理者の交代や新人職員は、直接あいさつをされている。行事時は、ご家族にも案内をされており、お花見の際には、8組ほどの参加があり、ご家族と手をつないで歩く姿も見られたようだ。ご家族の中には、いろいろな行事の案内を楽しみにされている方もある。	ご家族も、利用者の暮らしをともに支えるケアパートナーとして、一緒に活動する機会やケアや認知症について一緒に勉強できるような機会を作ってはどうか。さらに、利用者の状態等のこともあって、ご家族は「お世話になっている」という思いから、意見や要望を言い出しにくいような方もあるのではないだろうか。今後もさらに、ご家族が意見や要望を出しやすいような雰囲気や機会作りの工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	<p>3ヶ月に1回代表者、管理者、職員の参加する会を設け、意見交換を行っている。</p> <p>日曜日は、「レクリエーションを行う日」と決めて、職員は利用者と相談しながら活動されている。利用者から「たこ焼きが食べたい」という希望がある時には、おやつに、たこ焼きを焼いたり、季節に応じて、職員から「花壇や菜園の植え替えをしよう」と提案して、利用者と一緒に土に肥料を混ぜたり、苗を植えたりされている。職員は、今後、歌や体操等をもっと採り入れて、「室内レクリエーションを充実させたい」と話しておられた。</p>	
			(外部評価)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	<p>年末報告を実施し、代表者が査定し賞与及び給与へ反映させている。3ヶ月に1回代表者、管理者、職員の参加する会を設け、意見交換を行っている。</p>	
			(外部評価)		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	<p>事業部内での研修を実施し学ぶ機会を設け、介護視点の共有化を図っている。</p>	
			(外部評価)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	<p>社外研修への参加を促し個人の学ぶ機会と同業者との交流が出来る機会を作るよう促している。</p>	
			(外部評価)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	<p>入居前のアセスメントで利用者の状態を確認している。その情報を職員へ周知し、職員全体で関わりを持っている。</p>	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の入居前に行ったアセスメントを元に、生活歴や状態を確認しながら家族の意思を汲み取っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントを元に、法人内の医師、看護師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師への助言を求めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯物などの衣類の片づけ、食器の片付けや返却等、家事に関わることを共に行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 策定したケアプランを説明する際や家族来訪時には近況の報告を行い情報の共有化に努めている。事業所で行う催しに参加する機会を促し、共に過ごす機会を設けるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者と共に最寄りの郵便局へ行き切手の購入や手紙の投函を行い交流を続けられている。個別に固定電話を設け自由に電話の出来る設えにしている。外部の方は来訪時に面会者ノートへ氏名、続柄を記入して頂き、関係性の把握を行っている。年に1回誕生日レクを設け個別外出を行っている。 (外部評価) 事業所では、「ケアの部分は事業所で、楽しみごととはご家族と一緒に」と考え支援されている。お墓参りの希望は、「ご家族とふれ合う機会」と捉えて、ご家族に伝えて実現できるようサポートされている。利用者は、透析治療の必要な方が住民票を移す等して、県内各地から入居されており、馴染みの場所が遠いため出かけることに難しさもあるようだ。事業所に知人が訪ねて来てくださったり、ご家族や友人と手紙のやりとりをする方のサポートをされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 耳が遠い、声が小さい利用者が会話している場合は言葉のやり取りがスムーズになるよう仲介を行っている。関係性のよい利用者の組み合わせを把握し席順や外出時の組み合わせ等の考慮を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 事業所へ届く郵便物の返送を行う。本人、家族からの相談も対応するようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者に対しては日々の暮らしの中で折に触れて、家族には来訪時に、その思いや意向について聞き取りを行いながらケアに反映させている。 (外部評価) 入居時には、センター方式を用いて、暮らしの情報やできること・できないこと、わかること・わからないこと等についてアセスメントをされている。職員は、利用者との日々の会話の中から、暮らし方の希望等について把握できるよう努めておられる。	利用者の持病等のこともあり、支援に難しさはあると思われるが、さらに、職員が日々の利用者とかかわりの中から知った個々の思いや意向に関する情報を蓄積して、ご本人の本来の暮らし方の希望に近い支援が実践できるよう、工夫されてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントや利用者との日々の関わりから把握するよう努めている。家族へ近況報告を行う際に、本人のバックグラウンドを確認している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケアプラン策定時にアセスメントを行い日々の暮らしぶりの整理を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ケアプラン策定時に本人、家族の意思とアセスメントを基にケアカンファレンスを開催している。事前に専門職からの助言を確認しながら、体調や状態の変化に伴い柔軟な介護計画の策定を行っている。</p> <p>(外部評価) 基本的に、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、計画の見直しをされている。ご家族の意向等については、来訪時や電話で聞くようにされている。利用者ご本人とよく外出されるご家族が、「最近、物忘れが多いのが気になる」等と言われたことから、ご家族の思いを汲み取り、ご本人がご家族と外出したことを思い出せるよう、「パンフレットや入場券をメモ帳に貼る」ことを支援内容に採り入れられた。職員は、時々、メモ帳をお見せしながら思い出話をされている。希望を表わしにくい状態にある利用者の方は、日々の表情からは、「少しずつ話せるようになりたい」という思いや意向を汲み取り、職員からの「ゆっくり話しかけると返答がある」という気づきを支援内容に採り入れて取り組まれていた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日常の様子や状態の変化を記録へ残している。申し送り事項は法人内で共有できるようなシステムを取り入れており全職員が共有できるようになっている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 基幹病院と老人ホームとの連携を図り、法人全体で本人の状態に合わせた支援を話し合える関係を作っている。外部サービスも視野に入れ、訪問マッサージや美容サービスを取り入れている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 食料品の購入へ商店へ行っている。郵便局や銀行ATMを利用している。利用者の衣類を共に近所のクリーニング店へ出しに行っている。お花見の際には石手川公園を利用している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 基幹医院の医師が主治医となり、本人の症状に合わせ、本人と家族の希望を確認しながら他医院への柔軟な紹介を行っている。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が、透析治療を必要とする方であり、母体病院をかかりつけ医とされ、週3回、透析治療をされている。事業所への入居が決まると、1度母体病院に入院していただき、スクリーニング検査を受けて、隠れた疾病がないか等の検査をされている。母体病院からは、2週間に1度、往診がある。透析治療や受診・往診・リハビリは、屋根つきの通路を通して、事業所と病院を行き来されている。他の医療機関の受診は、基本的にご家族が付き添われるが、ご家族からの依頼があれば、1時間当たり1,000円で職員が同行するシステムになっている。歯科診療が必要な場合は、訪問診療で診てもらっている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 管理表を作成し定期的なバイタルサインの確認が行えるようにしている。看護師来訪時には利用者の状態の変化を伝え、助言や医師への取次を行っている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 基幹医院との連絡、情報交換を法人内のネットワークシステムを利用し行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族には来訪時に状態を伝えながら、その都度情報の共有に努めている。この関わりにより重度化した場合にも柔軟な対応と協力体制が作り易くなっている。</p> <p>(外部評価) 入居時に、事業所における「看取りに関する指針」にそって、事業所としてできることを説明されているが、透析治療を必要とする方は入院となり、事業所で看取り支援を行う対象となる方は実際には少ない。前回の外部評価のあと、事業所自らが利用者が「どういう最期を迎えたいか」、日常の会話の中から探る取り組みをされた。「食べられなくなったら、チューブは入れたくない」と話された利用者がおられ、ご家族にもその意向を伝えられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 法人内研修の講習内容に含まれ、毎年学ぶ機会を設けている。主治医の24時間対応によりマニュアルに沿った指示受けの出来る体制をとっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 半年に1回、災害等を想定した避難訓練を実施している。火災を想定した場合は出火場所を変更しながらその時に応じた避難が出来るよう取り組んでいる。緊急連絡網を作成し、全職員に出動要請が出来る体制をとっている。 (外部評価) 隣接する母体病院と合同で、避難訓練を実施されている。消防署では、「事業所と母体病院はひとつの建物」として考えられており、「出火の想定は病院側から」と指示があつて、11月の避難訓練時には、母体病院のリネン庫に昼間放火されたことを想定して行われた。民生委員の方にも参加いたされたようお願いされたが、都合もあつて参加には至らなかったようだ。	想定外のことも起こり得ることを踏まえて、事業所からの出火等、災害のいろいろな場面を想定して、避難訓練を重ねていかれてほしい。事業所の特徴を活かして、災害発生時、地域と協力し合えるような体制作りはできないだろうか。運営推進会議等を通じて地域の方達とも話し合ってみてはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) (外部評価) 各居室には電話があり、外線も自由に使用できるようになっている。ご本人あてに電話があつた場合には、居室でゆっくりお話できるよう、つないでおられる。又、ご自分で外線を使われる方もある。利用者は、水分制限のある方がほとんどで、自由に飲み物を口にできないことから、職員も利用者の前では飲み物を飲まないよう心遣いをされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に関わる際には腰を落とし視線を合わせながら傾聴の姿勢をとり、本人の言葉や表情の表れを待っている。本人が意思決定の難しい場合であれば、選択肢をいくつか提案しながら納得できる決定ができるよう働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 生活歴と現状のアセスメントに沿い、1日の流れを把握しながら関わりを持っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人のADLや家族の協力体制に合わせ訪問美容を利用したり、近所の美容室へ通えるようにしている。本人に合わせた衣類を家族が用意される。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 栄養管理された食事を提供しているが、季節感に合わせたメニュー設定となっている。食事形態も利用者の好みやADLに合わせたものになっている。また、利用者ができる範囲で食事の準備や後片付けを一緒に行っている。	
			(外部評価) 朝食は、ユニット毎に職員が利用者の好み等に合わせて作っておられる。昼・夕食は、法人厨房の管理栄養士が立てた献立で調理されたものが届き、事業所で盛り付けるようになっている。調査訪問時は、魚のフライにレモンが添えられてあった。食後、お盆を拭く利用者の様子が見られた。利用者は水分制限があるため、特に夏場は口の渇きを訴えられることもあり、氷片を口に含む等して渇きを紛らわせられるよう支援されている。時には外食されることもあり、利用者の希望で回転ずしに行かれることが多いようだ。年に数回、お花見や忘年会等の時は、「お酒を飲める機会」となっており、お好きな方は楽しみにされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士と連携を図り食事の提供、栄養状態の把握を行っている。利用者の状態に変化が生じた場合には速やかに管理栄養士に相談し支援を行っている。食事が低下した利用者への嗜好品の提供や偏食者に対する柔軟なメニュー変更を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを行う。本人の状態により口腔ケアが難しい場合には入浴時に義歯洗浄を行う等、工夫を実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>本人の意思に合わせ、トイレ誘導を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>透析治療をされている方は、尿意はあっても自尿のみられない方がほとんどのようである。排便については、下剤で調整されている。なるべくトイレで排泄できるよう、母体病院の理学療法士が週2回来られ、手の力や脚力の維持向上のため、リハビリを受けている方もある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>薬剤により排便コントロールを行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>透析を受けている利用者には、感染予防と出血防止の観点から透析のない日の入浴を実施している。入浴予定のある全利用者のタイミングを考えながら、本人の希望に合わせた入浴を行う。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入浴は、透析治療を受けない日の、9時から20時の間で、できるだけ体調のいい希望の時間に入浴できるよう支援されている。シャンプーやボディソープ等は、利用者個々で用意されている。同性介助を希望される方には、声かけも同性職員が行うようにされている。ビニール製の徐圧マットが用意されており、必要な方は浴槽や椅子に敷いて使用されている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>生活歴と現状のアセスメントに沿い、本人の1日の流れを把握し休息時間の提供を行っている。体調や皮膚の状態に合わせてクーリングや体交マットの使用を行い安心できるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 調剤薬局の薬剤師と連携を図っている。処方された薬剤の管理にお薬手帳を活用し過去に内服した薬剤、現在内服している薬剤の確認ができる。個別に本人の状態に応じた相談・支援を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 希望者を募って行う買い物や外食のレクリエーション、毎週日曜日に行う集団でのレクリエーション、個別に行う誕生日レクリエーションを通して利用者一人ひとりが楽しみを得たり気分転換ができるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気のよい日に近所へ散歩へ行ったり、買い物へ出掛けている。日々の関わりの中で本人から外出の希望があった場合には家族へ伝えて家族同伴での外出に向け調整を行っている。	
			(外部評価) 透析治療のない日は、できるだけ散歩や日光浴ができるように支援されている。四季折々の花を見に行かれたり、ドライブをして、食事をすることもある。利用者の誕生日は、「ご本人の希望が叶えられる日」として、行きたい場所のある方は、職員と1対1で外出されている。海を見に行かれたり、好きな店の蕎麦を食べに行かれた方もある。調査訪問時、帽子をかぶり、職員と散歩に出かける利用者の様子が見えた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望と家族の承諾を確認しながら本人による金銭管理を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 居室に固定電話を設けている。本人と家族との希望で携帯電話を所持することもでき、昼夜問わず連絡がとれるようになっている。郵便局へ行き利用者と切手や手紙を購入している。書かれた手紙を再び郵便局へ行きポストへ投函している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 毎朝8時頃より掃除を行う時間を設け利用者と共に清掃活動を行っている。季節に合わせて外気を取り入れるようにしている。庭には季節の花や野菜を栽培している。</p> <p>(外部評価) 中庭には、花壇のスペースがあり、季節のお花やきゅうり、ミニトマト等を植えておられる。利用者は、きゅうりが育っているのを見て「夏じゃねえ」と話されることもあるようだ。廊下の一角には、観葉植物を置いておられ、利用者と職員と一緒に水やりをされることもある。居間のみなが集うテーブルから少し離れた場所にソファがあり、昼食後、利用者と職員が並んで座り、和やかに会話する様子がうかがえた。壁には、行事の写真等を貼っておられ、ご本人が、「これ私じゃねえ」とご自分を見つけたり、話のきっかけになっている。日曜日以外、週3回、それぞれに決まった曜日に透析治療に行かれるため、昼間に利用者がそろうて居間に集うことがないため、日曜日は、「集団レク」の日として、おやつ作り等をされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 気の合った利用者同士が過ごす際には座席を寄せ合い過ごしやすく話し易いセッティングを行う。自居室で過ごす利用者が多い。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室には、本人が使っていた家具等を持って来てもらったり、部屋の入り口に暖簾をかけたしたりして、住み慣れた家と同じように安心して生活して頂けるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 仏壇やタンス、位牌を持ち込まれている方もいる。ご家族が家族写真を壁に飾ってくださったり、訪問された時には写真をみながら会話をされている。テレビを持ち込んでおられる方には、職員がチャンネル番号とテレビ局名をご本人に分かるように書いて貼っておられた。お気に入りの椅子に座って好きなテレビを見る方もある。お化粧をされる方の部屋には化粧品が並べてあり、調査訪問時、眉の書き方のコツを教えてくださいました。ご自宅から持って来られた戸棚に、思い出の小物を飾っている方もみられた。模様替えがお好きな方は、職員と一緒にベッドの配置を変えたり、3段ボックスを買って整理をされたりしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 出来るだけ自立した生活が送れるよう出来る事は利用者にして頂いている。トイレや居室の看板を設置し、利用者が行きたい所に安全に行けるように、わかりやすい空間作りに努めている。</p>	